



2008年11月25日
株式会社ビューティ花壇

個人投資家向け会社説明会 Q & A

読売ブリッジサロン2008年10月25日開催

Q1. 競合相手にはどのような企業がありますか。それは上場企業でしょうか。

A1. 当社と同様に生花祭壇を企画・制作・設営をしている企業は全国にありますが、その中でも企業規模が大きく当社がモニターしている企業は3社ございます。2008年6月期の当社の生花祭壇事業の売上高は約30億円ですが、関東に同規模の会社が2社(株ユー花園、(株)花智)、九州に1社(株美咲)ございます。

なお、生花祭壇事業を営む企業で上場しているのは当社のみです。

Q2. 天候によるリスクにどのように対処しようと考えていますか。

A2. 2008年6月期は、夏場の猛暑による生花の育成障害が発生し、当社も例年に比して生花の原価高騰に悩まされました。生花という商材を取り扱っている以上、天候により需給バランスが崩れて価格変動が生じますが、その影響を最小限に留めるために、当社では海外の生産者との直接取引を拡大し、一定量の生花を国内のみならず海外からも調達することで、天候によるリスクを回避するべく取り組んでおります。

Q3. 1日に全国各地で使用する花の本数はどれくらいですか。

A3. 日々の生花祭壇の制作・設営数は異なりますので、一概に申し上げられませんが、当社では2008年6月期の実績で年間2,286万本の生花類(社内消費分のみならず卸売分含む)を購入しています。そのうち1,221万本、半数以上を占めるのは葬儀需要を主とした菊類となります。

Q4. 生花祭壇の大きさによって異なると思いますが、祭壇の制作にかかる時間はどれくらいですか。

A4. 一般の葬儀で使用される8尺～12尺(幅2.4～3.6メートル)の生花祭壇を例にとると、技術者2名で現場挿し(葬儀場で直接段を組み生花祭壇を制作・設営する)にて制作した場合で約1～2時間となります。

Q5. 生花祭壇事業は労働集約的なビジネスと感じましたが、生花祭壇の制作を自動化等によってコストダウンを図ることは可能なのでしょうか。

A5. 生花祭壇は一つ一つ技術者によって制作・設営されるもので、自動化は難しいと考えております。生産性を上げるためには技術者の插花技術の練磨が大切であり、当社ではこの点に注力して生花祭壇の完成度を高めると同時に生産性の向上を目指しております。その他に、祭壇の設営等に使用する道具の改良や作業環境の改善等にも努めております。

Q6. 昨今、食品等で問題となっている中国との取引ですが、花業界では大丈夫でしょうか。

A6. 当社の中国からの生花輸入本数比率は2006年6月期で4.2%、2007年6月期で9.5%、2008年6月期で12.7%と、年々増加してきております。当社では、生花原価の低減とリスク分散を目的として中国をはじめとする海外からの生花輸入の比率を徐々に高めております。2008年9月に既に閉鎖しておりますが、当社では2003年4月に中国山東省青島市に輪菊の生産拠点として青島麗人花園芸有限公司(合弁会社)を設立しておりました。合弁会社設立以降から今年に至るまで、日本から技術指導員を派遣し、品質の維持、供給の安定化、ロス率の低下に努め、ノウハウを蓄積してきました。中国からの輸入は主に品質面等で不安定であり、維持・拡大は容易ではありませんが、引き続き社内の海外調達専門の社員を育成・強化することで安定的な輸入量の確保とリスクの回避に努めていきたいと考えております。

Q7. 生花の安定供給、価格安定のために温室栽培とかの計画はないのでしょうか。

A7. 当社では、1年を通じて生花を購入しており、温室で栽培された生花類も購入しております。但し、温室栽培に関しましては、暖房等も利用することから生花の価格が高騰する傾向があります。従って、価格を安定させる上では通年で比較的温暖な国・地域からの生花の購入を増やすことも検討していきたいと考えております。海外においては、台湾やマレーシアからの購入が引き続き増えていく予定です。

Q8. 葬儀単価の不透明さが未だ残っていると感じますが、価格の透明性はどのように担保していく考えでしょうか。

A8. 当社の生花祭壇及び関連する商品は、通常は葬儀社様への販売となっておりますので、販売先である葬儀社様が価格を決めているのが実情です。価格の透明性に関していえば、華道家 假屋崎省吾氏にプロデュースいただいた生花祭壇「假屋崎省吾プレステージライン」は、当社で決めた販売価格を表示しております。

Q9. 当期純利益が減少傾向にあるので、利益率向上のための施策を強化してもらいたいのですが、具体的にお考えはありますか。

A9. 2008年6月期に関しては、生花原価の高騰、業務委託費の増加、内部統制コストの増加、京都支社・青島麗人花(中国の輪菊の生産法人)の閉鎖等もあり、例年に比して費用が増加し大幅減益となりました。2009年6月期は上記要因を鑑みて、国内外の生産者の開拓、海外調達比率の上昇、社内技術者の育成・強化、監査報酬等内部統制コストの見直し、などに着手しております。引き続き売上拡大を図ると同時に販売管理費の抑制し、収益率の改善に努めていく所存です。

Q10. 家族葬の普及など葬儀の小型化が進んでいるようですが、その影響はありますか。

A10. 故人や遺族の高齢化による近所付き合いや社会的つながりの希薄化による会葬者の減少や、ご家族・ご親族・近しい人だけで故人とのお別れを偲びたいというニーズの高まりによる葬儀の小型化によって葬儀単価は下落の傾向が見られます。但し、減少の影響が大きいのは、会葬

者数の減少の直接の影響を受ける仕出し料理や返礼用品などであり、生花祭壇は各々葬儀で1基設営されますので、前例に比べると減少の影響を受けにくくなっております。家族葬の普及に伴い、生花祭壇の小型化も進むと思われませんが、現時点では生花祭壇の普及スピードの方が早い(受注件数の伸び率の方が高い)ので売上高の減少には至っておりません。また当社の上位顧客には、家族葬を中心に営む葬儀社様も多く存在しております。

Q11. 株主優待制度に興味があるのですが、内容を教えてください。

A11. 当社の株主優待制度は、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式への投資魅力を高め、中長期的に保有していただける株主様の増加を図ること、並びに株主優待制度を通じた当社事業への理解促進を図ることを目的として2008年6月19日に新設致しました。保有株式数と保有期間に応じて、「株主優待ポイント」を株主様に発行します。株主様は、当社よりお送りします「優待商品カタログ」の中から、ポイントを利用してご本人だけでなく、ご家族やご友人にもイベント(クリスマス、バレンタインデー、母の日など)や季節に合わせたお花や観葉植物をお送りすることができます。株主優待制度に関する詳細は、『見て楽しい株主優待2009年上期』(日興アイ・アール株式会社刊)に紹介記事が掲載されているほか、2008年12月末までに当社ホームページに専用のコンテンツをUPする予定です。

以上

本件に関するお問い合わせ

株式会社ビューティ花壇 IR・広報部

TEL: (03) 5776 - 5850

FAX: (03) 5776 - 5851

E-mail: ir-info@beauty-kadan.com

Website: <http://www.beauty-kadan.com>